

## 大学生における自己形成に関する研究(Ⅱ)

—諸活動領域を支える文脈の質的区分—

山田 剛史

(神戸大学大学院総合人間科学研究科)

**【問題と目的】**本研究では、抽象度の高い統計的検定では見えにくい、より具象度の高い大学生固有の意味世界を示すため、大学生における諸活動領域間での比較(活動間比較)(山田, 2003)よりもさらに深い次元での活動内における文脈を考慮した比較(活動内比較)を行う。具体的には、諸活動領域を支える文脈の分類を行うこと、その活動が自己形成的活動として機能しているかを検討するため、自己形成の規定要因尺度の相違について検討を行うことを目的とする。

**【方法】**(1) **調査内容**: ①自由記述による重要活動の表出(3個)および最重要活動の選定(1個) ②①の選定理由に関する自由記述 ③自己形成の規定要因尺度(山田, 2003) (2) **調査対象**: 大学生141名 (3) **調査時期**: 2002年7月

**【結果と考察】**1. **諸活動領域における文脈のカテゴリライズ** 各活動内容の選定理由をもとにその意味・内容からカテゴリライズを行った。その結果、「授業・講義」では、「1.学業への回避的姿勢」(学生は学業が仕事だから)、「2.学業への能動的姿勢」(大学進学を決めた理由が“学びたい学問があるから”ということだったから)、「3.将来・就職への見通し」(将来の仕事につながるから)の3つ、「クラブ・サークル」では、「4.成長志向型」(自分の視野を広げ、成長させてくれるものだと思うから)、「5.現在重視型」(今が大事だから)の2つ、「アルバイト」では、「6.成長志向型」(遊びなどと違って「お金をもらってやっている」という責任感を感じ、働くことによって成長できるから)、「7.生活保障型」(お金がないと何も出来ないから)の2つ、「自己研鑽」では、「8.成長志向型」(自分の経験として成長させられるから)、「9.外発的・必要型」(将来職についたときこまるから)の2つ、「遊び・対人関係」では、「10.成長志向型」(人との関わりの中で私は成長していくから)、「11.享楽主義」(楽しい生活を送りたい)の2つ、「生活習慣」では、「12.生活基盤重視型」(他のこともこれに支えられている)、「13.価値先行型」(しなきゃ生きていけないからなど)の2つがそれぞれ得られた。概観すると、学業活動と生活習慣を除く諸活動において、共通するより抽象度の高い成長文脈が見受けられた。

### 2. 文脈カテゴリーにおける自己形成の相違

次に、諸活動領域内の文脈における検討を行うため、文脈カテゴリー(ただし10名以上の8カテゴリーに限定)を独立変数、自己形成の規定要因(ただし3下位尺度の合計得点)を従属変数とした一要因分散分析を行ったところ、0.1%水準で主効果が得られた( $F(7,107)=18.79, p<.001$ )。

Tukey法による多重比較の結果(Table), (1)学業活動を最重要として捉えている中でも、その活動が回避的な理由(姿勢)によって規定されているもの(カテゴリー1)は他群(9を除く)に比して低い値を示し、(2)自らが選択した活動として位置づけられる「自己研鑽」においても、その活動が外発的な理由によって規定されているとしたもの(カテゴリー9)および(3)クラブ・サークル活動においても、その活動が単に現在の楽しさや満足によってのみ規定されているとするもの(カテゴリー5)はカテゴリー4, 8, 10よりも低い値を示した。逆に、「クラブ・サークル」「自己研鑽」「遊び・対人関係」の3つそれぞれの活動の中でも成長文脈によって支えられていると記述しているもの(カテゴリー4, 8, 10)は有意に高い値を示した。

これらより、たとえ同じ活動であってもそれを支える文脈やそれに対して付与される意味づけは異なり、逆に異なる活動であっても、同様の意味・文脈が存在していることが示唆された。

Table 諸活動を規定する文脈における自己形成得点の相違

活動内容	(N=)	自己形成得点	群間差(HSD)
授業・講義	1(15)	62.4(10.8)	1<<<3/4/5/8/10/11
	3(12)	76.4(7.6)	9<<<4/8/10
クラブ・サークル	4(14)	88.2(5.1)	1/5/9<<<4
	5(16)	75.9(6.2)	3<<4/10, 5<<8/10
自己研鑽	8(17)	86.1(8.2)	1<<9, 3<8
	9(15)	73.3(8.0)	
遊び・対人関係	10(14)	87.6(8.3)	
	11(12)	79.0(5.0)	

(N=115) (<, p<.05; <<, p<.01; <<<, p<.001)

**【引用文献】**山田剛史 2003 大学生における自己形成に関する研究(Ⅰ) —全体性から抽出された活動内容と認知的評価およびその文脈からの検討— 日本発達心理学会第14回大会発表論文集, 46. (YAMADA, Tsuyoshi)